

4月6日 より確かな信頼関係をつくるために

新型コロナウイルスが世界を揺るがすという歴史的な大災害の収束の兆しの見えない中、令和2年度の学校生活が始まります。

東京や千葉のように感染拡大が著しいところでは、休校措置を一か月延長するところもでています。兵庫県のように高校生が休校措置の延期に向けて活動しているところもあります。

ネットに寄せられる様々な声を見ると、学校再開が、さらなる感染拡大を引き起こすリスクを心配する声、特に若者を媒介として、各家庭のお年寄りに深刻な被害をもたらすことへの危惧を訴える声がたくさんあります。私も同感です。

一方で、学校再開を喜ぶ声もたくさんあります。子どもが家庭にいて、働くことができなくなっている方や仕事が制限されて生活を維持することが難しくなっている方からは学校再開を歓迎するコメントが寄せられています。こうした声も切実な思いとして共感できます。

そんな中で、私たちに、何ができるのだろうかと考えます。

こんなある高校生の書き込みがありました。

「私は、学校再開が怖くてなりません。休校中に平気でカラオケに出かけたり、ゲームセンターで遊んでいたりする先輩や同級生たちが登校する学校へ行くのが嫌でなりません。」毎日報道される新型コロナウイルス関係の情報は、日々変化してきています。

今朝のニュースで気になったのは、東京へ出張した人が地元にもどって感染が確認される例が多く報告されていること、東京が非常に危険な状況だから、地方へ帰省する人が多くなり、そこから地方への感染拡大が始まってきているという報道です。すでに長野県の阿部知事は、先週、首都圏からの帰省について、「高齢者のいる家庭への帰省を控えてほしい」と会見で述べていました。しかし、帰省の動きはなくなり、全国各地への感染が広がっています。

新型コロナウイルスと人類の闘いは、始まったばかりです。疫学の専門家、WHO世界保健機構でパンデミック対策プログラムを構築した一人で早くから、パンデミックについて警鐘をならしてきたラリー・ブリリアントは、次のように語っています。「人類は、この闘いに必ずや勝利するだろう。しかし、それまでに、10億人が感染し、1億6千万人が命を落とすだろう。経済的損失は、1兆ドルから3兆ドルに上るだろう。」と。

彼が、14年前に予想したパンデミックの状態は、まさに現在の新型コロナウイルスの感染拡大の状況に重なります。私たちは、10億人の感染、1億6千万人の命をどれだけ防ぐことができるのでしょうか？

私たちにできることは、先述した女子高生のコメントに対する回答にもなります。

それは、「信頼」です。

マスクの着用、うがい、手洗い、三密を避ける、不要不急な外出を避ける、この誰にでもできることを、確実にやること、だれもが、これを行っているという信頼がすべての基盤となっています。

学校再開の大前提は、この「信頼」です。もし、今現在、この学校にだれ一人感染者がいなければ、普通通りに学校生活を行っても何ら問題はありません。しかし、通学を含めて学校外で、今後感染するおそれは否めません。万が一、心ならず感染したとしても、先に述べた当たり前の感染予防を確実にやっていけば、感染拡大のリスクは、かなり低くなると思います。この「信頼」という前提があるから、学校が再開できるのです。

今回の感染拡大、外出自粛等の全国的な動きの中で、在宅勤務、テレワークが推奨されるようになりました。休校措置の中でも、在宅学習、ICTを活用した遠隔授業などが脚光を浴びています。当校では、昨年度よりClassiを導入しており、簡易なものではありますが、課題を配信したり、みなさんからの質問に答えたりする双方向の学習支援を行ってきました。県内のある学校では、ZOOMという映像・音声を双方向に送受信できるプログラムを活用した映像による対面授業を、実現している学校もありました。

経済産業省は、本来有料となるこのZOOMの拡張機能を無料で学校等に提供することにし、こうしたICT活用を推進しました。しかしながら、昨日の報道ではこのZOOMのシステムに何者かが侵入し、授業中に関係ない映像を送り込むなどのいたずら、妨害があったとのことです。

みなさんが創っていく未来に、ICTなどのテクノロジーは不可欠です。それは、私たちの生活をより豊かにしていくために開発されています。しかしながら、このように悪意がそこにあれば、これほど、危険なものはありません。

私たちは、これまで以上に、倫理や道徳、そして、信頼が必要な世界で生きていかななくてはならないのです。

現在のこの状況こそ、私たちは、より確かで強固な「信頼関係」を築いていく必要があります。

大変な状況の中での令和2年度のスタートとなりました。

この学校再開が、できればずっと続き、よりよい学校生活、学びができることを望んでいます。しかし、また、再び、休校せざるを得ない状況になったとしても、一人一人が、自分にできることを確実にやり、より確かで価値ある学びを進めていき、学びの自立を目指してほしいと思います。そして、一人一人の日々の生活や学習の姿を通して、高志中等教育学校生として、確かで強固な信頼関係を築いていってくれることを期待しています。

<参考>ラリー・ブリリアントのインタビュー記事掲載サイト

<https://wired.jp/2020/03/25/coronavirus-interview-larry-brilliant-smallpox-epidemiologist/>